

環境報告書2010の編集方針と基本要件

1. 編集方針

- 本報告書は、銭高組の事業活動における環境への取り組みと社会活動について報告することにより、当社の事業内容および環境への取り組みについてご理解頂くことを目的としています。
- 前年度の報告書に対する皆様のご意見、ご感想を反映致しました。

2. 基本要件

- 対象組織：銭高組 本社および支店
- 対象期間：2009年度（2009年4月～2010年3月）
- 対象分野：環境経営に関する事項および社会的取り組みに関する事項
- 参考にしたガイドライン
環境省「環境報告書ガイドライン（2007年度版）」
および建設3団体「環境会計ガイドライン（2003年版）」
- 次号発行予定：2011年9月



URL <http://www.zenitaka.co.jp/>

本店	〒550-0005 大阪市西区西本町2丁目2番11号 なにわ筋ツインズ ウエスト	TEL 06-6531-6431
本社	〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-3265-4611
大阪支社	〒550-0005 大阪市西区西本町2丁目2番11号 なにわ筋ツインズ ウエスト	TEL 06-6531-6431
東京支社	〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-3265-4611
北海道支店	〒064-8628 札幌市中央区南6条西13丁目1番28号	TEL 011-532-7511
東北支店	〒981-8533 仙台市青葉区柏木1丁目1番7号	TEL 022-234-3431
北関東支店	〒330-0061 さいたま市浦和区常盤1丁目2番21号	TEL 048-822-5108
千葉支店	〒260-0834 千葉市中央区今井1丁目12番8号	TEL 043-263-8181
横浜支店	〒231-0027 横浜市中区扇町3丁目8番8号 関内ファーストビル	TEL 045-201-9171
北陸支店	〒951-8052 新潟市中央区下大川前通三ノ町2170番地 グランドアームス	TEL 025-224-2171
名古屋支店	〒460-0002 名古屋市中区丸の内1丁目14番13号	TEL 052-231-7631
神戸支店	〒650-0012 神戸市中央区北長狭通4丁目9番26号 西北神ビル	TEL 078-391-5571
広島支店	〒730-0847 広島市中区舟入南3丁目1番5号	TEL 082-291-3181
四国支店	〒760-0027 高松市紺屋町5番5号 紺屋町ファイブビル	TEL 087-821-5401
九州支店	〒812-0025 福岡市博多区店屋町2番16号	TEL 092-291-3939
国際支店	〒102-8678 東京都千代田区一番町31番地	TEL 03-5210-2349
マニラ支店	Unit 1002,139 Corporate Center, Valero St.,Salcedo Village, 1227 Makati City, PHILIPPINES	TEL 63-2-893-6689
ハノイ事務所	Unit 104, Techno Center, Thang Long Industrial Park Dong Anh District, Hanoi, VIETNAM	TEL 84-4-3951-6392
アフリカ事務所	P.O.BOX 49986-00100, Brookview Apartment, Elgeyo Marakwet, Kilimani Dr.,Nairobi, KENYA	
ジャカルタ事務所	JL.Sampit II No.11, Kebayoran Baru, Jakarta 12130, INDONESIA	TEL 62-811-149546
技術研究所	〒198-0024 東京都青梅市新町9丁目2222番地	TEL 0428-31-6858

この報告書に関するお問い合わせ先 銭高組 本社 安全環境部 TEL 03-5210-2324 FAX 03-5210-2325 E-mail eco@zenitaka.co.jp



Zenitaka Environmental Report 2010



環境報告書2010
銭高組

社会からの信用・信頼を得ることを第一に 持続可能な社会の実現に貢献します



社長 銭高一善

当社は、社是に「信用第一」を、経営理念に「社会から認められ社会から求められる企業として永遠に発展する」を掲げ、お客様、株主、ビジネスパートナー、地域社会の方々と社員を含めた数多くのステークホルダーに支えられ、本年、創立123年を迎えることができました。

今後の100年先に向かって「社是」「経営理念」に則り、社員一人ひとりが社会のルールを順守することを基本に、社内におけるコーポレート・ガバナンスの強化を行うと共に、全役職員がコンプライアンスの徹底を図り、企業としての社会的責任を果たして参ります。

地球温暖化の防止と自然環境との共存

当社は、建設産業に携わる一員として、建設副産物やエネルギーの消費に伴う二酸化酸素等の排出により地球環境にさまざまな影響をおよぼしていることを真摯に受け止め、地球温暖化防止に向け、設計から施工、運用、維持、解体に至る建造物のライフサイクルにおけるCO₂削減に取り組み、自然環境と共存し、安全な暮らしに貢献する「ものづくり」を目指しています。

環境に配慮した事業への取り組み

当社は、「大地への愛 人間への愛」の心のもと、建設活動を通じて環境保全に取り組むことを環境方針の基本理念としています。また、本社をはじめ、全支社店で環境マネジメントシステム（ISO14001）に基づいた環境保全活動を推進しています。

環境に配慮した新しい技術への取り組みとして、地球温暖化対策に関するお客様のニーズに応える専門部署として新たに環境ソリューション部を新設しました。技術本部管下の都市・建築環境部は建物の省エネ化、長寿命化、構造および設備のリニューアル技術を、自然環境部は自然環境の保全、共生を基本とする技術を積極的に提供しています。また、設計統轄部では、建物が環境に与える影響を評価するライフサイクルアセスメントを実施し、CO₂の削減と環境負荷低減を考慮した設計を行い、お客様のご要望にお応えする提案を行って参ります。

今後とも地球温暖化対策に向けた効果的な技術開発の促進、ノウハウの集約を行い、これまでに培ってきたさまざまな技術を融合し、社会のニーズに応じて参ります。

品質・安全衛生活動への取組み

品質管理につきましては、事業としての根幹である品質マネジメントシステム（ISO9001）を基に、作業所による各種品質検査、店社工事部署による品質パトロール等でミスやトラブルの発生防止を行い、「お客様からの信頼を確実に得ていくこと」を目標に実践しています。また、各工事ごとに「作業所プロジェクト」を編成し、本社、支社店の関連部署が一体となって作業所を支援し、問題点の早期発見、早期解決に努めています。

安全衛生管理については、「決めたことを確実に守り実行する安全衛生管理」を基本方針に、

労働安全衛生マネジメントシステム（通称：コスモス）により、工事の施工計画時からリスクアセスメントを施工段階ごとに実施すると共に、協力会社の皆様に対してもリスクアセスメントを取り入れた安全衛生作業手順書の作成・提出・順守をお願いし、安全衛生活動にご協力頂いております。

環境活動の取り組み

当社は、全ての作業所において協力会社の皆様と一体となり、建設副産物抑制に向けた4R活動を推進し、ゼロエミッション活動に取り組んで参りました。そして、その取り組みを確かなものとするために環境パトロールを実施し、環境活動の実施状況についての改善指導を行い、地球環境に優しい施工が実施されているかを工事完了まで継続指導しています。

本報告書は、当社における2009年度の環境活動の取り組みと、今後の取り組み方針をとりまとめました。

今後とも皆様方の信頼にお応えし、環境保全に貢献できますよう積極的に環境保全活動に取り組んで参りますので、より一層のご理解と忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

2010年9月

社是

- 一、 信用第一
- 一、 堅実経営
- 一、 積極的精神
- 一、 和親協同

経営理念

- 一、 社会から認められ社会から求められる企業として永遠に発展する
- 一、 進取の精神を発揮し国際企業として世界に躍進する
- 一、 人材を育成し自己の向上をすすめる活力ある企業として繁栄する

環境方針

基本理念

私たちは、「大地への愛、人間への愛」の心のもと、社会から認められ社会から求められる企業として、建設活動を通じ、環境保全に取り組みます。

基本方針

1. 事業活動の全段階で環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で利害関係者の見解に配慮します。
2. 環境目的および環境目標を設定し、定期的に見直すことにより環境保全活動の継続的改善および汚染の予防を実行します。
3. 環境に関連する法規制および同意するその他の要求事項を順守します。
4. 資源の有効活用と廃棄物の発生抑制に努め、環境保全を重視した設計および技術開発を行います。
5. 全従業員および当社の活動に関連する人々に環境方針を周知します。
6. 環境方針は、開示します。

Zenitaka Environmental Report 2010



CONTENTS

トップメッセージ P-1



ZENITAKA 2009 Highlight P-5

豊かな自然環境と共生しながら島を結ぶ	7
安全で豊かな暮らしを守る都市基盤を築く	9
人々が安心して渡れる橋を架ける	11
自然エネルギーを活用するエコ庁舎	13
環境性能に優れた地域医療拠点をエコ工事で施工	15
省エネ性能を追求した新しいオフィスのかたち	17



社会への取り組み P-19

コーポレート・ガバナンス	19
コンプライアンスの徹底	20
品質への取り組み	21
安全への取り組み	22
社員への取り組み	23
ビジネスパートナーへの取り組み	24
社会貢献活動	25



環境への取り組み P-29

環境マネジメントシステム	29
2009年度環境活動実績と2010年度環境活動目標	31
環境負荷低減への取り組み	33
建設廃棄物削減と再資源化への取り組み	35
環境会計	36

外部表彰 P-37

アンケート結果 P-38



豊かな自然環境と共生しながら島を結ぶ
ワルミ大橋



安全で豊かな暮らしを守る都市基盤を築く
比恵9号幹線



人々が安心して渡れる橋を架ける
ラオス ヒンフープ橋



ZENITAKA 2009 Highlight



自然エネルギーを活用するエコ庁舎
大分法務総合庁舎



環境性能に優れた地域医療拠点をエコ工事で施工
宮崎大学医学部附属病院

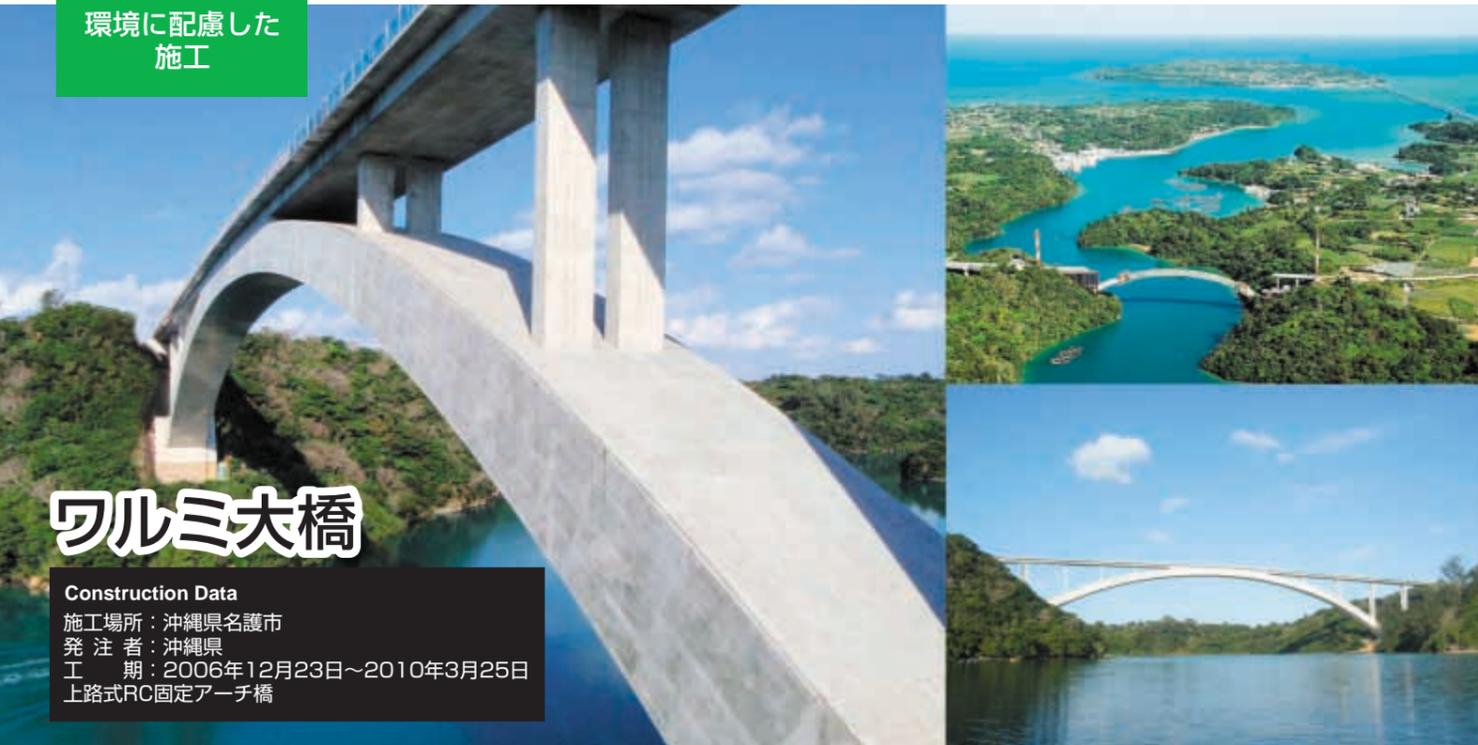


省エネ性能を追求した新しいオフィスのかたち
メイフィス名駅ビル

環境に配慮した
施工

ワルミ大橋

Construction Data
 施工場所：沖縄県名護市
 発注者：沖縄県
 工期：2006年12月23日～2010年3月25日
 上陸式RC固定アーチ橋



豊かな自然環境と共生しながら島を結ぶ

景観や地域特性に配慮したアーチ橋

ワルミ大橋は、沖縄本島の本部半島と屋我地島を結ぶ海峡横断橋です。架橋地点の羽地内海は、台風時の船舶避難泊地として港湾計画に定められている海域で、水深が深く周辺は急峻な地形が続きます。屋我地島の干潟は、高さ10mを超えるオヒルギ（マングローブ植物）をはじめ3種類のマングローブ植物が生息し、チドリなどの渡り鳥が渡来する自然豊かな地域で、国が屋我地島獣保護区として指定しています。

こうした背景から、橋梁架設にあたっては橋種選定委員会が設置され、海峡内の環境保全と船舶の航行の安全性や景観保護の観点から、水域内に橋脚のない上陸式RC固定アーチ橋が採用されました。

ワルミ大橋の構造的な特長として、スパンが長いことが挙げられます。コンクリートアーチ橋としては国内で5番目、合成鋼管アーチ巻き立て工法で施工されるアーチ橋としては国内で最長となるスパン長を有しています。

ワルミ大橋の開通により、既に開通している古宇利大橋や県道110号線バイパスとあわせて、沖縄県北部圏域の生活圏の拡大、通勤・通学や医療・福祉サービスの向上、観光ルートの形成など、地域振興が期待されています。



位置図



合成鋼管アーチ巻き立て工法

耐久性に優れた橋を造る

沖縄県内の離島に架かる橋梁は、海上に架橋されることから塩害対策に重点をおいています。ワルミ大橋も他の橋と同様、塩害対策として塗装鉄筋を使用し、コンクリートかぶり厚さを増しているほか、ポリエチレンシーシースやエポキシ樹脂塗装PC鋼材の採用など、高耐久化に資する様々な技術を採用しています。

土砂、コンクリートの流出防止

周辺の海は国定公園に指定されており、魚の養殖も盛んな地域です。一方、施工箇所周辺は赤土で覆われており、施工にあたっては周辺道路を舗装し、重機の走行による粉じん発生を防止するため洗車場を設置しました。また、掘削時は常にシート養生を行い、雨により赤土が海へ流出することを防止しました。

コンクリート打設は大半が海上での施工であり、コンクリートの落下を防止するため、高圧管材を使用するとともにセメントが流失しないよう工夫を重ねました。

連結式

2009年12月8日、名護市長をはじめ、多くの関係者に参列して頂き、橋の連結式を執り行いました。島袋吉和市長（当時）から「ワルミ大橋の完成により島民の生活が便利になる」との言葉を頂き、地域の方々の利便性向上に繋がる仕事に携わることができたことを誇りに思うとともに、3年間の苦勞が報われた瞬間でした。

地域との交流

橋梁ができるまでの各段階で、地域の小・中・高校の学生の皆さん、諸官庁ならびに各企業の土木のプロの方々に現場を見学していただきました。

作業所には見学者ルームを開設し、展望台に望遠鏡を設置して、見学に訪れる方々にわかりやすく作業をご覧頂けるように配慮しました。



塗装鉄筋



エポキシ樹脂塗装PC鋼材



赤土流出対策



水質汚濁防止ネット



上部工連結式



連結式記念写真



沖縄工業高校の見学会



望遠鏡を設置

作業所ボイス



梶川 晋
(九州支店)

地域から愛される橋を造る

作業は最大傾斜40度のアーチリブ斜面上で行われるため、資材の滑落防止や安全通路の確保に苦勞しました。足を踏ん張りながらの作業のため、慣れるまで筋肉痛に悩まされ、今まで経験したことがない早さで安全靴が消耗しました。国内最大級のアーチ橋であり、小学生から発注者まで数多くの方に見学して頂きました。小学生から興味津々な顔つきで「現場で大変だったことは何ですか？」と聞かれ、青い海を守りながらの施工を説明し、「すごいね」と感動してもらった時は日ごろの苦勞も飛んでいく思いでした。

比恵9号幹線

Construction Data
 施工場所：福岡県福岡市博多区
 発注者：福岡市道路下水道局
 工期：2007年3月29日～2010年7月31日
 泥土圧シールド工法（掘進機外径φ6150mm）

安全で豊かな暮らしを守る都市基盤を築く

水害から街を守る

1999年6月29日、福岡市内や御笠川上流地域を豪雨が襲いました。下流に位置する福岡市博多区では御笠川が決壊し、博多駅周辺の駅やビルに甚大な浸水災害を引き起こしました。

また、2003年7月19日には1時間最大雨量104mmという観測史上最大の豪雨が御笠川上流域の太宰府市を襲いました。再び決壊した御笠川の溢水による浸水被害は2,916棟に上り、地下鉄が不通になるなど交通機関に混乱が生まれました。

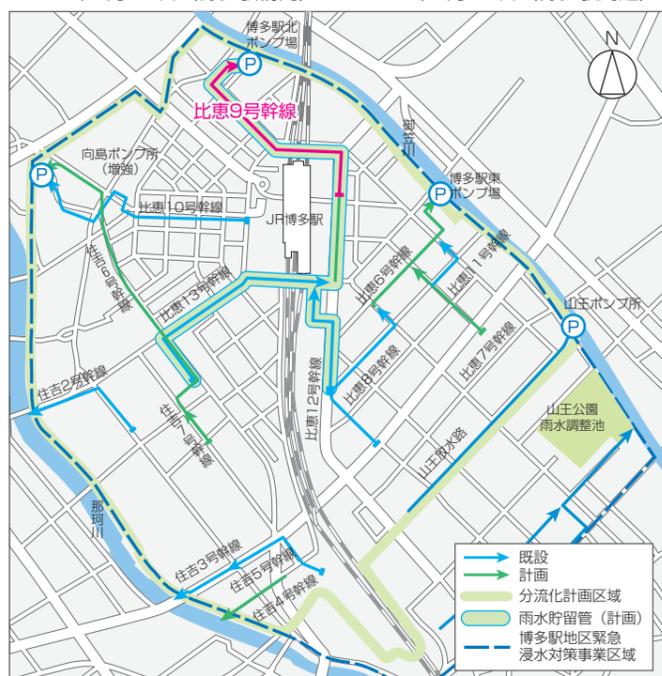
水害の原因は、開発による農地や森林の減少や都市化の進展（アスファルトの増加）により雨水が地下に浸透しにくくなり、雨水流出量が増加したことが原因のひとつと考えられています。

こうした背景から、福岡市は、雨水整備水準をこれまでの時間雨量59.1mmから79.5mmまで引上げ、雨水幹線の築造やポンプ場の整備、公園を利用した貯留浸透施設の整備など、緊急浸水対策事業を推進しています。

対策事業の一環である比恵9号幹線は、従来の雨水幹線に比べて口径が大きく、貯留機能を持つ構造の雨水幹線です。当社は、博多駅西側からJR高架下を横断し、交通量の多い博多駅中央口までの約882mを泥土圧シールド工法により施工しました。



1999年6月29日（博多駅構内） 2003年7月19日（博多駅周辺）



博多駅地区緊急浸水対策事業区域

技術を駆使して都心の急曲線を掘る

工事は、No.1発進立坑からNo.0到達立坑へ向けて掘進を開始し、No.0立坑に到達後マシンを引き上げ、再びNo.1発進立坑に戻り、博多駅方面へ向けて再発進しました。発進立坑を含む3ヶ所の急曲線部では、当社が開発した技術（SEW工法、Eバック工法）を活かし、2010年7月に工事は無事に完了しました。今後は他の幹線と接続され、博多の街を水害から守っていきます。



比恵9号幹線工事区間



シールド坑内急曲線部

急曲線部は直線部に比べ多くの余掘が必要となり、地山とセグメントの間に注入する裏込剤がテールに回り込むなどの問題点があります。工事では、当社が開発したEバック工法を採用しました。



No.0立坑に到達

一度目の掘進を終えたシールド機を分解し、地上へ引上げます。このとき、カッタービットなども新しいものに取り替えました。



シールド機を引上げ

引上げたシールド機は、最初の立坑に戻って組み立て直し、反対方向へ向けて再発進しました。

豊かな緑に囲まれた作業所

発進立坑のある出来町公園は、1889（明治22）年から1963（昭和38）年までの間、国鉄博多駅があったところで、九州鉄道発祥の地として記念碑があります。立坑築造にあたっては、公園内の樹木や景観を損なわないよう計画しました。また、定期的に公園内の清掃を行い、環境保全に努めました。



発進立坑（防音ハウス）



近隣清掃

見学会を開催

作業所では、社団法人土木工業協会主催の100万人の市民現場見学会をはじめ、自治会の方々や近隣の小学生を招いて多くの見学会を実施しました。

見学会では発進立坑を出発点に、地下トンネル内を博多駅方面に歩いて頂き、水害に強い街に生まれ変わる博多を実感していただくことができました。



自治会の見学会



トンネル坑内見学

作業所ポイス



濱田 雅孝
（九州支店）

市民の期待を胸に

本工事は、福岡市の玄関口、博多駅近郊の主要幹線道路直下での工事でした。過去の浸水災害を受けての浸水対策工事（雨水幹線φ5000mm）でしたので、市民の注目度が高く、「やらんといかんばい浸水対策」をテーマに近隣住民の方々の見学会から小学生の見学会、また福岡市が一般市民の皆さんに参加者を募っての見学会などを積極的に行いました。「安心して生活できる環境を」という市民の皆さんの期待を胸に、工事を完成させました。

ラオス国 ヒンフープ橋



Construction Data

施工場所：ラオス国ビエンチャン県ヒンフープ郡
 発注者：ラオス国 運輸・公共事業省
 工期：2007年9月11日～2010年3月15日
 PC5径間連続箱桁橋（押し出し工法）



人々が安心して渡れる橋を架ける

安全で円滑な交通確保を目指して

ラオス人民民主共和国は、中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの5ヶ国と国境を接する内陸国で、国連から後発開発途上国（LDC）に指定されています。ヒンフープ橋建設計画は、ラオス最長の重要幹線道路である国道13号線にかかる旧ヒンフープ橋の下流約200mの地点に橋長約195m、幅員10mの新橋を建設するもので、日本の無償資金協力事業（ODA）です。

フランスの植民地時代に建設された旧橋は、過去の洪水で上部工が流されたため、工事着工時は、片側通行の仮設橋が架けられ、中国とカンボジアを結ぶ重要幹線道路をかうじてつないでいました。また、日々膨大な荷物を積んだトラックが行き来しており、いつ壊れてもおかしくない状態の上、天候次第で何日も通行止めになることがしばしばでした。国土の約70%が高原や山岳地帯のラオスでは、輸送のほとんどを道路輸送に依存しているため、ラオスの人々は新橋の完成による交通や物流の安定を待ち望んでいました。



国道13号線



片側通行の旧橋

ラオスで初となるPC押し出し架設

ヒンフープ橋は、下部構造は直接基礎の橋台、小判型橋脚、箱桁橋台、上部構造はプレストレストコンクリート構造の箱桁橋です。着工後の最初の乾季（12月～4月）の間に下部工（基礎と橋脚）を施工しました。

架橋されるリック川は、雨季と乾季の水位差が14mにも達するため、上部工の架設には天候や水位に左右されないPC押し出し架設工法を採用しました。押し出し作業は195mの橋長を19ブロックに分け、桁製作ヤードで分割施工した桁を順次押し出します。PC押し出し工法は、ラオス国内では初めて採用される架設工法で、発注者であるラオス国運輸・公共事業省やラオス人エンジニアからも注目される工事となりました。



ラオス位置図



押し出し架設

猛暑に打ち勝ち無事故で工事を完了

熱帯モンスーン気候に属するラオスでは、昼になるにつれ猛暑となるため、日本のように動けばすぐにバテてしまいます。そこで80名近い作業員が交代制で作業する工程を組み、熱中症対策を万全にしました。

現地の方々や、現地を訪れた日本人旅行者の方から温かい激励を頂き、2009年12月、橋梁工事が完了しました。

友好の架け橋が完成

2010年1月、2年4ヶ月を経てリック川に新しい橋と舗装道路が完成しました。1月末に行われた開通式にはトンルン・ラオス副首相兼外務大臣、宮下正明特命全権大使をはじめ、多くの関係者が参列しました。竣工式では、2頭の象を先頭に現地の人々による渡り初めが行われ、竣工を喜びあいました。



2009年1月



2009年3月



2009年5月



完成全景



竣工式



象を先頭に渡り初め



現地の方々の渡り初め

ラオス人エンジニアを育てる

現地作業員の安全意識向上を図るため、朝礼時に写真や絵を使った危険予知活動を展開しました。当初は裸足で作業に来ていた作業員も次第に安全意識が向上し、無事故で工事を終えることができました。

また、建設を学ぶ現地の大学生が、約1ヶ月間現場研修に訪れ、工事に携わりました。ラオス人エンジニアを育てる国際貢献の一端を担うことができました。



朝礼時の危険予知活動



現地大学生の現場研修

作業所ボイス



中元 修
(国際支店)

国境を越えて安全作業を

本プロジェクトは、ラオスで当社が初めて施工する土木工事です。当然のことながら自然条件、環境法規、作業員やエンジニアの意識、使用する資機材、環境処理施設等、あらゆることが日本とは異なり、当初はコミュニケーションに大変苦労しました。しかし、そのような条件のもと、保安帽をかぶることから安全教育をはじめ、現地でできることをラオス人と共にコツコツと実行し、無事竣工を迎えることができました。

大分法務総合庁舎

Construction Data
 施工場所：大分県大分市荷揚町
 発注者：国土交通省九州地方整備局営繕部
 設計：国土交通省九州地方整備局営繕部
 株式会社 佐藤総合計画
 工期：2008年2月7日～2010年10月29日
 構造・規模：S造 地下1階 地上10階建

自然エネルギーを活用するエコ庁舎

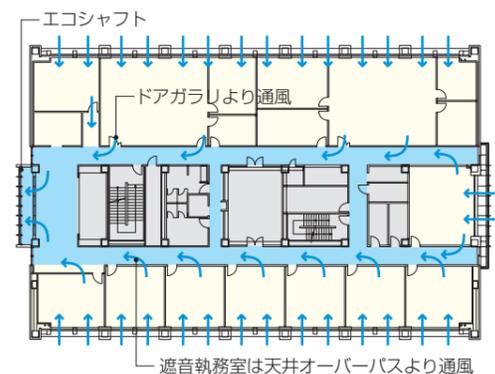
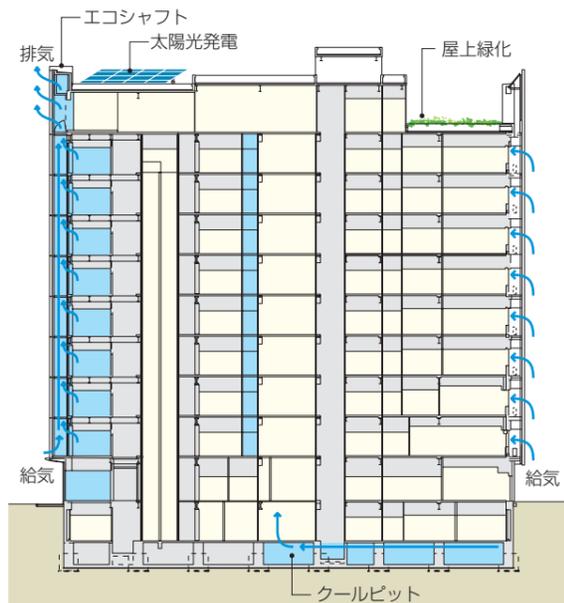
ライフサイクルCO₂を削減

大分法務総合庁舎は、税務署や裁判所、警察署などが立ち並ぶ官庁街の一角に位置し、大分地方検察庁・大分区検察庁、大分地方法務局、大分保護観察所、福岡入国管理局大分出張所の4官署が入居する総合庁舎です。

建物は、ライフサイクルを通じたCO₂削減を目的として、自然エネルギーの利用、省エネルギー、建物の長寿命化などを軸に計画され、様々な環境対応設備を備え、高い環境性能を有しています。また、将来の改修や模様替えを考慮して外壁や間仕切りをパネル化し、サスティナビリティ、フレキシビリティにすぐれた庁舎となっています。

建物の西面は窓を減らし、西日などの日射負荷を低減するとともに、垂直ルーバーと高遮熱断熱ガラスを用いたカーテンウォールで外皮負荷を抑制しています。屋上には屋上緑化と太陽光発電装置を設置し、発電量をリアルタイムに見える化して一階ロビーに表示しているほか、雨水の再利用も行っています。交差点に面した敷地北側にはポケットパーク、エントランス前にはバス待ちにも利用できるピロティを配置し、来庁者に親しみやすいアプローチとしています。

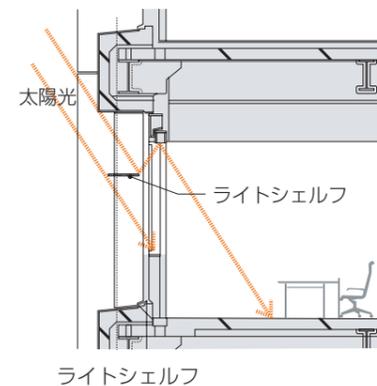
大分市は、海、山、川、農村やまちの景観を大分市民共有の財産と考え、大分市固有の景観を「つくる・まもる・はぐくむ」ことを目的に「大分市景観条例」を制定しています。大分法務総合庁舎は、環境意識の高い大分市の風土にふさわしい新しい庁舎のスタイルを確立しました。



自然エネルギーを活用

南面の窓にはライトシェルフを設置しています。これは、窓面に取り付けた庇に太陽光を反射させ、柔らかな拡散光を室内に取り込む手法で、照明負荷を低減できます。

地下のクールピットや各階の外周部から取り入れた外気を建物内に通風させ、西面に設置したエコシャフトから排気する自然換気手法を用いています。エコシャフト頂部の排気部には風の力で自動開閉する高性能サッシを設置しています。こうして建物の中に自然風の通り道を作ることによって空調負荷を低減しています。



ライトシェルフ

エコシャフト



太陽光発電



屋上緑化



エコシャフト排気部

周辺環境への配慮

地方裁判所や検察庁が立ち並ぶ官庁街での施工にあたり、騒音や振動には特に注意を払いました。仮囲いに設置したデジタル標識板で騒音レベルをリアルタイムに表示し、防音シートを使用して近隣への騒音を低減しました。



発電量の見える化



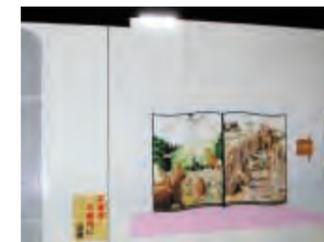
雨水の再利用

地域貢献

作業所では、大学生が実社会での業務を体験するインターンシップ制度に協力し、大分大学の生徒を2週間受入れ、施工管理の教育研修や施工図の見方などの実地教育を行いました。また、仮囲いにLED照明を設置して夜間照明とするなど、地域との交流を大切にしました。



インターンシップ



仮囲いにLED照明を設置

作業所ボイス



田中 延啓
(九州支店)

市民に開かれた新しい総合庁舎を

当作業所は、官庁街で分散する4官署を効率・利便性を重視した総合庁舎として官庁街中心に竣工した建物です。建築(当社)以外6社別途業社で構成されましたが、施工調整には皆が前向きに協力しあいました。また、完成につれ、目に見えて職員・市民の関心が高まり、現場見学会等も開催しました。今後は、施工者で築いた「輪」が、総合庁舎を利用される方々の「輪」となり、融合していただきたいと思っております。

環境性能に優れた
建物を造る

宮崎大学医学部附属病院



Construction Data
 施工場所：宮崎県宮崎市清武町
 発注者：国立大学法人 宮崎大学
 設計：株式会社 教育施設研究所
 工期：2008年12月12日～2010年2月8日
 構造・規模：RC造地上3階建 S造地上3階建

環境性能に優れた地域医療拠点をエコ工事で施工

建物の消費エネルギーを大幅に削減

宮崎大学医学部附属病院では、医療の高度化・多様化に対応し、医療と研究・教育環境の改善を図るため、2006年度から7年間に亘る全面的な施設整備が行われています。この工事は、そのうちの新外来診療棟と外来管理棟の2棟を新築しました。

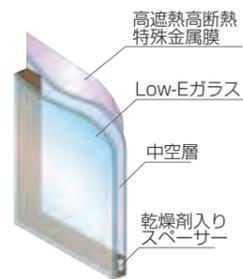
「太陽と緑の国」と呼ばれる宮崎県は、年間を通じて日照や降水量が豊富な地域です。この豊かな自然の恵みに囲まれた地域の方々は、地球環境の保全に対する意識が高く、この建物にも様々な環境対策が取り入れられています。

建物の外周にはガラスカーテンウォールと連層窓が配置され、利用者に開放感と爽やかな印象を与えます。これらの窓ガラスには、遮熱性、断熱性に優れた高遮熱性能熱線反射ガラスや遮熱高断熱複層ガラス（Low-Eガラス）が使われています。これらのガラス材料は、適度な透光性を有し、夏は日射熱の流入を防ぎ、冬は暖房輻射熱の流出を防ぎます。

外来診療棟の屋上は遮熱塗料で仕上げ、屋上緑化トレイを設置しました。これらは、夏期の室内温度の上昇を軽減し、屋上表面の温度上昇を抑えるとともに地域のヒートアイランド対策としても有効です。



エントランスホール吹抜け部 ステンドグラス



遮熱高断熱複層ガラス



屋上緑化

4R運動を基本に廃棄物を削減

施工に当たっては、資材の減量化、運搬車両の削減、建設廃棄物の削減、環境負荷の少ない工法の選定など、エコ建設工事を実施しました。

1階スラブ下の型枠には、型枠兼用断熱材を使用しました。木製の型枠パネルが不要になるため、熱帯雨林資源の使用を低減できます。全体で約2650m²の型枠を削減しました。

ボード材や軽量鉄骨間仕切下地材および設備配管は、あらかじめ工場で使用寸法にカットし、作業所での加工を減らすことで廃棄物の発生を抑制しました。

また、資材搬入業者と綿密な打合せを行い、アスファルトルーフィングなどの資材梱包を簡易包装に、タイルは、コンテナ型のリターンブル包装を使用して廃棄物の発生を抑制しました。

セメントなど粉体製品の袋は、防湿のためポリエチレンフィルムを使用した重層構造で、分別処理が困難でしたが、PRF加工の専門業者に引き渡すことで100%再利用しました。

作業所が一丸となって4R運動（Refuse：入れない、Reduce：減量、Reuse：再利用、Recycle：再資源化）を基本としたゼロエミッション活動に取り組み、リサイクル率98.2%を達成しました。



型枠兼用断熱材



資材のプレカット



アスファルトルーフィング簡易包装



分別コンテナ



産廃処理教育



朝礼時ゼロエミ教育

施工中のCO₂排出を抑制

作業所への搬入車両や揚重機の運転手にはアイドリングストップ教育を行い、運転者の環境意識を高め、騒音・振動の低減およびCO₂排出抑制を目指しました。



使用重機のステッカー



アイドリングストップ啓蒙垂れ幕

作業所ボイス



米倉 良一
(九州支店)

環境保全を重視した病院建替工事

施設は宮崎地区の核となる病院で、診療中の病院内での建替え工事のため、病院利用者や大学関係者、医療関係者の利便を損なわないよう動線の確保や搬入車両の計画に注意を払いました。また環境面に配慮した仮設計画、施工を進め、エコ建設工事を目指しました。エントランスは、3階分の吹抜けでガラス面にはステンドグラスが配置された開放的な空間です。喫茶コーナー等もあり市民の憩いの場になっています。

メイフィス名駅ビル

Construction Data

施工場所：愛知県名古屋市中村区
 発注者：名鉄不動産株式会社
 設計・監理：名鉄不動産建築事務所・銭高組一級建築士事務所
 工期：2008年8月2日～2010年4月16日
 構造・規模：S造（CFT造）地上12階建

省エネ性能を追求した新しいオフィスのかたち

目指したのは快適で機能的なオフィス

メイフィス名駅ビルは、名鉄名古屋駅をはじめJR在来線、新幹線、近鉄線、あおなみ線、名古屋市営地下鉄の東山線、桜通線が乗り入れる中部地方最大のターミナル駅に隣接した立地条件を活かし、さまざまなビジネスシーンに対応できる機能的なオフィスビルです。1、2階には店舗があり、利便性にもすぐれています。

建物は、東面と北面全面に遮音性の高いガラスカーテンウォールを採用し、交通量の多い錦通りからの騒音レベルを43dB以下に遮断しています。また、CFT構造の柱を採用することで約550m²の無柱空間を実現した事務所階は、開放的で広々とした執務空間となっています。

照明器具、空調吹き出し口、スプリンクラーなどの設備を一括して配置できるシステム天井の採用により、フレキシブルな間仕切変更に対応でき、レンタルスペース毎の照明・空調制御も可能です。これにより空調負荷を低減しました。

エントランスホールには画家の城戸和子先生の作品を展示し、和み、語らう空間を演出しています。

エレベータやトイレなどの共用部は、車椅子利用者にも使いやすいユニバーサルデザインとし、快適で機能的なオフィスビルを実現しました。



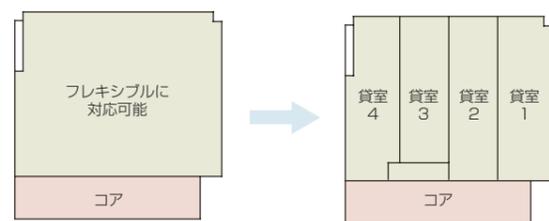
エントランスホール正面の絵画（城戸和子先生の作品）



フレキシブルな事務所階



システム天井



小割対応（例）

CASBEE Aランク認証を取得

2010年4月現在、全国21の自治体では一定規模以上の建物に対して、CASBEE*¹による環境性能の自主評価結果を確認申請時に報告することを義務づけており、メイフィス名駅ビルは、Aランクの認証を取得しています。

環境に優しいビルとして、屋上には太陽光発電システムを設置しており、緑化スペースを設けています。

屋内では省エネ性能に優れた高効率照明器具やLED照明の採用に加え、外部の明るさを検知して照明を制御する昼光センサーを設置し、昼間の照明負荷を低減しました。照明・空調稼働状況をBEMS（ビルエネルギーマネジメントシステム）により見える化し、エネルギーの使用を自動制御しています。



屋上緑化



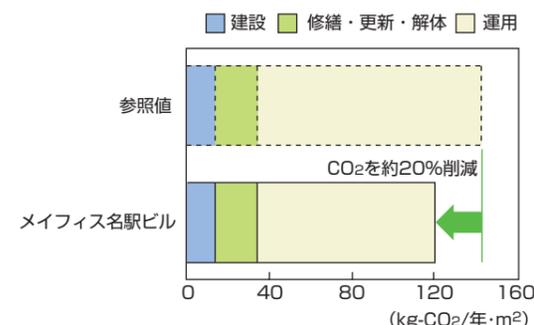
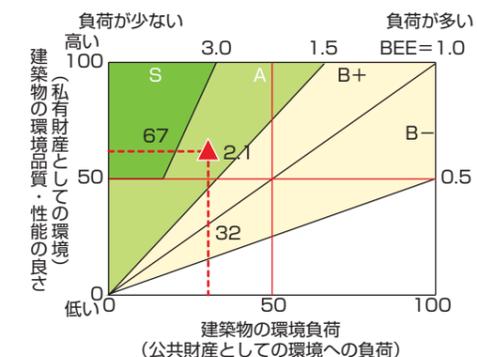
太陽光発電システム



LED照明（エントランスホール）



沿道緑化



* CASBEE：建築環境総合性能評価システム
 建築物を環境性能で評価し、格付けする手法です。省エネや省資源といった環境負荷低減の観点だけでなく、室内の快適性や景観への配慮も含めた建築物の環境性能を総合的に評価します。

設計者ボイス



長谷川浩一
 （設計統轄部）

エコロジーなビジネス発信地を創造

当プロジェクトは、変貌する名古屋駅エリアに位置する、老朽化した旧大商ビルの建替え計画です。メインストリートの錦通りを含む2方向の道路に面した立地を活かし、緑化と自然風通を考慮した配置計画としました。徹底した省エネルギー化により運用時の二酸化炭素（CO₂）の排出量を2003年比で年間約20%削減を見込んでいます。様々な手法を用いて省エネ化を図り、機能性、安全性、利便性、快適性に優れたビジネス空間づくりを実践しました。



コーポレート・ガバナンス

当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方は、「社是」、「経営理念」の基に、顧客満足の獲得と収益力の強化により企業価値を高めていくという経営方針を実現するために、経営上の組織体制や仕組みを常に点検整備し、必要ある施策をスピーディーに実施し、全役職員が高い倫理観に基づいたコンプライアンス経営を実施することです。

全てのステークホルダーの利益を重視した経営を実践するために、適時適切に企業活動の情報開示を行っています。

取締役会

取締役会は、2010年6月末現在6名で構成し、原則月1回開催する他、必要に応じて適時開催し、法令に定められた事項や経営に関する重要事項を決定します。なお、経営責任を明確にするために、取締役の任期は1年としています。

監査役会

当社は、監査役制度を採用しています。

監査役会は、2010年6月末現在5名で構成し、内3名は社外監査役です。監査役は、取締役会やその他の重要会議に出席するなどにより、取締役の職務執行の監査はもとより、広く業務執行の監査を実施しています。

執行役員

当社は、2003年6月開催の定時株主総会後の取締役会で執行役員制度を導入しました。2010年6月末現在28名が選任されており、事業年度ごとの業務執行の成

果責任を明確にするために、執行役員の任期は1年としています。

重役会

当社は、取締役と執行役員をメンバーとする重役会を設置し、原則月1回開催し、取締役会で決定した経営に関わる重要事項の執行状況を執行役員が報告し、推進・フォロー策を討議しています。

内部統制システムの整備

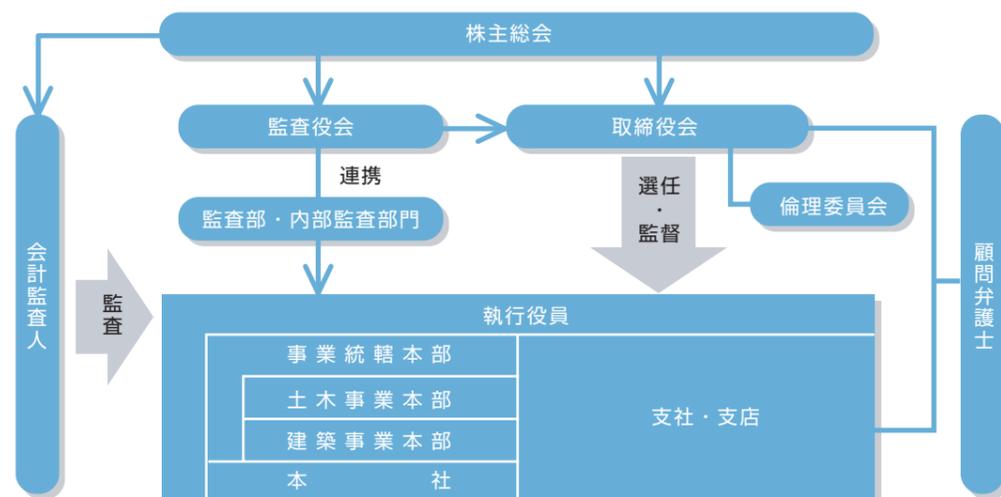
当社は、リスクの未然防止や事前対応のための「内部統制に関する基本方針」を定めています。2008年4月より施行された「財務報告に係る内部統制報告制度」への対応を含め、内部統制の強化に向け「すべてを予測可能とし、危機・リスクに対する感知能力の向上を目指した」組織体制の構築ならびに社内風土の醸成に努めています。

内部監査

監査部他の内部監査部門が監査役と連携し、合法性と合理性の観点から、業務の執行、諸制度の運用が適正に実行されているかを検証するために、業務全般にわたる監査を実施しています。

会計監査人の監査

当社の会計監査業務は、監査法人が実施し、当社監査役と適時に監査方法、監査内容に関する意見交換を行っています。



コーポレート・ガバナンス体制

コンプライアンスの徹底

当社は、コンプライアンスが企業の社会的責任の基本であり企業存続の根幹をなすものと認識し、法令違反や不正を防止する社内体制の強化や役職員の意識向上等全ての面において、コンプライアンスの徹底を図っています。

行動規範

当社は、1994年3月に、役職員が日常行動において法令を順守し建設業の発展に寄与するための「行動規範」を定めています。

行動規範

1. 建設産業の健全な発展に寄与するため、建設業の構造改善の推進について積極的な取り組みを行う。
2. 企業倫理を確立し、法令に違反する行為を排除し、公正な競争が維持される建設市場の環境整備に努める。
3. 生産性の向上、技術力の錬磨、人材の育成等広い範囲にわたって不断の経営努力を重ねる。
4. 建設業法や独占禁止法の関係法令の順守に努め、公正な企業活動を行う。

コンプライアンス研修の実施

当社は、2003年4月に「独占禁止法順守に関する業務要領」を制定し、毎年、研修計画を策定し、独占禁止法研修指導者による研修を行っています。

2009年度は、全社で15回、延べ567名が受講しました。

個人情報の管理

当社は、個人情報保護の重要性を認識し、個人情報を適切に管理することは社会的責任と考えています。

2005年3月に「個人情報保護方針」および「個人情報保護規定」を制定し、個人情報管理委員会を設置して個人情報を管理しています。

毎年、全役職員を対象に個人情報保護教育をeラーニングにより実施し、ルールの徹底を図っています。

2009年度は、1765人が受講し、同時に行う理解度テストにより効果を確認しています。

倫理委員会

当社は、2002年2月12日に、社会倫理、社会規範、定款、社内規則、規定等に基づいた企業活動の健全性を確保するため、業務執行機関から独立した「倫理委員会」を設け、あらゆる問題について原因を分析し、結果を水平展開して全役職員にコンプライアンスの徹底を図っています。

反社会的勢力の排除

当社は、反社会的勢力とはいささいの関係を持たず、反社会的勢力から不当要求をされた場合にはこれを拒絶します。

反社会的勢力排除のため、以下の施策を実行しています。

1. 対応統轄部署を総合支援本部総務部に、不当要求に対する相談窓口を各支社店庶務課に設置しています。
2. 「企業が反社会的勢力による被害を防止するための指針」を全社員に周知させ、社員一人ひとりがコンプライアンスを徹底し、企業価値の向上を図っています。
3. 警察、暴力追放運動推進センター等と緊密な連携を構築し、企業防衛協議会等に加入し暴力団排除活動に参加するとともに、反社会的勢力の情報を収集し活用しています。
4. 反社会的勢力が協力会社となって不当要求や利益を得ることを防止するため、反社会的勢力の経営関与および交際関係があった場合、直ちに契約を解除するむねの専門工事基本契約書を協力会社と締結し、排除の徹底を図っています。



コンプライアンス研修



個人情報保護法eラーニング

品質への取り組み

創業以来培ってきた品質保証活動を礎として、1996年のISO9001認証取得を機に、よりシステムチックに、より迅速にお客様のニーズにお応えできるよう品質マネジメントシステムを構築しています。

品質マネジメントシステム

価格・品質・スピードにおいてお客様に満足して頂ける生産システムとするため、営業・設計・工務・調達・施工・アフターサービスに至るまでの全てのプロセスで、日々「リスクの洗い出し」、「計画（P）、実施（D）、評価（C）、改善（A）」を繰り返し、改善・改革・改新を行っています。

チェックアンドフィードバック

作業所による工程内検査、監理者による検査試験、工事部署による品質パトロール、社内検査、マネジメントシステム内部監査など、幾重にもチェックを繰り返し、ミスやトラブルの発生防止に努めています。2004年からは「作業所プロジェクト」制度を立ち上げ、本社や支店関連部署が作業所をバックアップし、早期の問題発見、問題解決を図っています。

万一、工事中および完成後の建造物でミスやトラブルが発生した場合、「ハブセンター情報」により全社員に伝達し、問題を共有します。担当者による現地確認を行い、迅速に処理を行った後、原因を追及し、その結果をもとに再発防止策を立案します。

さらに、ミストラブル事例集を作成し、社員教育や工事着工前に行う検討会などで水平展開し、再発防止に役立てています。

技術者の育成

システムが出来上がっていてもそれを実行するのは社員であり、ビジネスパートナーである協力会社の事業主や作業員の方々です。基礎的技術の講習をはじめOJTや集合教育を繰り返し行っています。



基礎的技術講習



品質方針
顧客から認められ求められる品質を、タイムリーに、経済原則にのっとり提供する



登録証



付属書



PDCAを繰り返し、システムの継続的改善を図る

建造物の維持・保全

物件の引き渡し後は、契約時に取り交わしたアフターサービスの基準に基づき定期点検などを実施し、建造物の維持保全を行っています。

安全への取り組み

当社は、人間尊重の理念のもと、「決めたことを確実に守り実行する安全衛生管理」を安全衛生方針とし、職場で働く全員が自らの安全と健康を確保するとともに、快適な職場環境を構築して社会からの信頼をより一層高め、企業価値をさらに向上させます。

建設業労働安全衛生マネジメントシステム (COHSMS：コスモス)

本社、大阪支社、東京支社、名古屋支店、東北支店において、建設業労働災害防止協会より2009年3月26日に、支社店と作業所を対象にしたコスモス認定の個別認定を受けました。

安全衛生活動の基本である安全衛生管理計画書作成の段階からリスクアセスメントを実施し、支社店、協力会社、作業所が一体となって労働災害の潜在的な危険有害要因をなくすとともに、健康の増進と快適職場づくりを実現し、安全・安心な職場環境と安全衛生水準の向上を目指す安全衛生管理活動を行っています。

安全成績

2009年度は、「死亡・重大災害絶滅」を目指し、前年度の災害の発生原因等により、リスクアセスメントを実施し、「墜落・転倒災害の防止」1点のみを本社安全衛生重点目標として設定しました。

各支社店および作業所の安全衛生重点目標は、前年度の災害発生原因等と、地域特性、作業環境を踏まえたリスクアセスメントを実施し安全衛生活動を推進した結果、災害発件数は前年より25%減少しました。

2010年度は、「墜落・転倒災害の防止」、「重機械・クレーン等災害の防止」、「第三者災害の防止」を本社安全衛生重点目標として設定しました。各作業において事前にリスクアセスメントを実施し、安全衛生作業手順書と予定外安全衛生作業手順書を作成して安全衛生活動を推進します。

安全衛生方針
決めたことを確実に守り実行する安全衛生管理

安全衛生教育

年間安全衛生管理計画表に基づき、安全衛生管理技術の向上と継承を目的に安全衛生教育を実施しています。

また、支社店および作業所が、自主的な安全衛生活動を推進する目的のコスモス教育と、自社・他社災害の真の原因を追及した災害事例等の教育を行い、同種災害発生防止を推進しています。

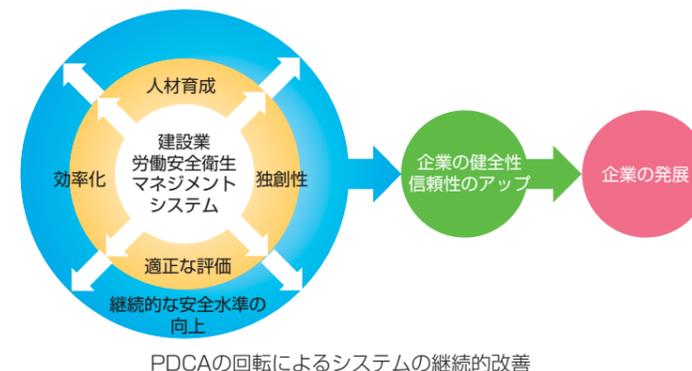


COHSMS認定証

銭高組の安全成績



度数率：100万延実労働時間当たりの労働災害による死傷者数をもって災害発生の頻度を表したもの
強度率：1,000延実労働時間当たりの労働損失日数をもって災害の重篤度を表したもの



安全教育



社員への取り組み

社員一人ひとりが持てる力を十分に発揮できるよう、階層別教育、職種別専門教育、職場内教育（OJT）や国内留学制度、海外研修制度などの諸制度を整備しています。社員一人ひとりの主体性、人格を尊重し、それぞれが持つ能力を最大限に発揮できる働きやすい職場環境の整備に取り組んでいます。

職場内教育（OJT）

新入社員には、先輩社員から選任されたジュニアリーダーが学生から社会人への環境変化や建設業全般の基礎知識修得へのサポートを行っています。また、部署内に指導者を置き、入社3年目までの社員を対象に、日常業務に必要な手順の修得と実践についての指導や、階層別、職種別専門教育を行っています。

技術者育成プログラム・現場能力向上教育

技術者育成プログラムの一環として、入社5年次、10年次の技術系社員を対象に、現時点における能力レベルと今後の取り組むべき課題を明確にして研修を実施しています。また、若手・中堅社員を対象に、現場能力向上のための教育を実施しています。技術や施工方法はもちろん、教科書では学べない現場の知恵などを伝承することを目的に、現地（作業所）で実地教育を行っています。

社内FA制度（Z-チャレンジ21）

社員一人ひとりが保有している能力の発揮と、それによる組織の活性化を目的として、社員が希望業務への挑戦をアピールできる制度を設けています。この制度は、登録すればすべて希望が叶うという訳ではなく、登録した人の「熱意」「やる気」「努力」をしっかりと確認したうえで、希望業務を行う部署への異動を決定します。

セクシュアルハラスメント防止

教育の実施や社内通達等によりセクシュアルハラスメントの防止に努めています。また、職場におけるセクシ

ュアルハラスメントに関する相談・苦情窓口を各支社店に設置しています。

仕事と家庭の両立

ワークライフバランス実現に向けた取り組みの一環として、短時間勤務制度や始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げ、所定外労働をさせない制度等を織り込んだ育児・介護休業制度を規則として明文化し、休暇取得を推進しています。

メンタルヘルス対策

新入・若手社員を対象に、ストレスとメンタルヘルスの基礎知識、その予防・対処法、周囲へのサポート方法などの習得を目的としたメンタルヘルス教育を実施しています。企業として取り組みを強化すべき重要な課題として捉えており、今後は教育の範囲と対象をさらに広げていく予定です。

社員寮・社宅

社員寮は、大阪に3ヶ所、東京に4ヶ所、その他の地域に5ヶ所、合計12ヶ所あります。社宅も全国に14ヶ所あり、他にも借上げ社宅制度を導入・運用しています。

社員食堂

大阪、東京では社員食堂を完備しており、ゆっくりと食事を取ることができます。日替定食や単品メニューも豊富で、栄養バランスにも配慮し、おいしい食事での仕事へのモチベーションアップにつなげています。

相互会

社員相互の親睦を図るため相互会が結成されています。支部毎の総会（旅行等）、クリスマスパーティの開催や、クラブ活動等が行われています。

クラブ活動は、体育部（野球、サッカー、ハンドボール、釣等）と文化部（茶道、写真、囲碁将棋等）があり、市民大会等で優秀な成績を修めているクラブも多数あります。



メンタルヘルス教育



フエンテ新座志木（社員寮）



クリスマスパーティ

ビジネスパートナーへの取り組み

協力会社の活動を支援

当社は、協力会社の経営評価、施工能力評価と計画発注などにより、優秀な協力会社の経営の安定性確保に取り組むと同時に、協力会社が自主的に企画、運営する現場見学会および工場見学会やVE/CD*¹⁾事例発表会を支援しています。特に事例発表会は、職種の異なる出席者同士の活発な質疑応答がなされ、同じ建設業で働く仲間としてお互いに啓蒙、触発し合う意義のある活動となっています。

*¹⁾ VE/CD：バリューエンジニアリング/コストダウン

安全衛生推進大会

「過信と自信は 紙一重 慣れた作業も 再々確認」のもと、2009年度に優秀な安全衛生活動を推進された協力会社職長等を表彰するとともに、当社と協力会社が一体となり2010年度安全衛生管理目標達成に向け、全員が共通の認識と価値観をもって安全衛生管理を推進し、危険ゼロの快適職場作り邁進することを新たに誓いあうため、支社店の安全衛生委員会と安全衛生協力会共催による安全衛生推進大会を各支社店ごとに開催しています。

この大会では、当社表彰規定により、社長賞、優良賞等を受賞した作業所に従事された協力会社職長等を表彰するとともに、安全衛生協力会独自に所属の優良職長を表彰する等、一層の安全意識の高揚と施工技術の向上を進めるべく意欲付けを行なっています。



VE/CD事例発表会



見学会



安全衛生推進大会

協力会社の皆様の声



井浦 裕之さん
(株式会社 トップライズ)

より高品質な仕事を

埼玉県内の作業所に従事し、施工に関する賞を頂戴することが出来ました。職長として安全管理は元より、施工の精度にも目を見張り、より品質の高い仕事を心掛けて参りましたが、このような受賞をさせて頂き、心の励みとなると同時により一層仕事に邁進していく気持ちに弾みを増しました。今後もより精度・品質の高い仕事ができるよう頑張ります。



山部 岳人さん
(株式会社 サンレー)

チームワークを大切に

私は、埼玉県内の作業所で設備工事の現場代理人として従事しています。現場内の職長会の活動で力を入れているのは、場内の整理整頓、日々の片付け、一斉清掃を活発にしていくことで、安全通路の確保、仕事しやすい環境を作り上げることに協力させていただきました。職長同士の横のつながり、チームワークを大切にして、工事竣工に向けて今後も無事故で取り組んでいきます。

社会貢献活動

美化運動

当社では、支社店や作業所周辺のゴミ拾いや美化運動を通じて地域の活動に参加しています。

東京支社では、社団法人日本建設業団体連合会・財団法人日本ナショナルトラスト合同で、旧安田楠雄邸の清掃ボランティアに参加しました。また、千代田区の一斉清掃に定期的に参加し、社屋周辺の美化運動に取り組んでいます。

名古屋支店では、桜通りの一斉清掃に定期的に参加しています。

常滑線・河和線太田川駅付近連続立体交差工事（愛知県）では、作業所付近の清掃や草刈りを実施し、近隣の美化に努めています。



日建連旧安田邸清掃（東京支社）



千代田区一斉清掃（東京支社）



桜通りの清掃（名古屋支店）



作業所付近の清掃
（常滑線・河和線太田川駅付近連続立体交差工事）

災害復旧

2009年7月7日、和歌山県田辺市は局地的豪雨に見舞われ、**田辺西BP芳養・元町改良工事**（和歌山県）作業所裏手の梅林から土砂が流出し、県道19号線に堆積しました。近隣の方々と一緒に、土砂の撤去、道路・側溝の清掃を行い、道路の復旧を支援しました。



土砂流入状況
（田辺西BP芳養・元町改良工事）



復旧状況
（田辺西BP芳養・元町改良工事）

2008年6月の岩手・宮城内陸地震（震度6強）の被害を受けた**国立花山青少年自然の家**（宮城県）の復旧工事を行いました。施設は、建物や給水設備に大きな被害が発生し、利用者の受入れを停止していました。2010年5月に工事が完了し、地震発生から約2年ぶりに利用者の受入れを再開しています。



被害状況
（国立花山青少年自然の家）



復旧
（国立花山青少年自然の家）

献血

当社では、社員に参加を呼びかけ献血運動に積極的に協力しています。2009年度は全国で104人の社員が献血に協力しました。



献血（大阪支社）



献血（名古屋支店）

地域のイベントに参加・協力

北陸新幹線小矢部川橋りょう工事（富山県）では、小矢部川漁協と小矢部市主催の鮎の稚魚放流イベントに参加し、市内の植生保育園年長組の園児が稚魚を放流するのをお手伝いしました。園児たちは元気のいい若鮎に興味深々で、手掴みしたり走り回ったりの楽しい一日となりました。



鮎の稚魚放流（北陸新幹線小矢部川橋りょう工事）



永平寺大野道路杉保トンネル工事（福井県）では、作業所付近の鹿谷町で毎年行われている雪祭りに参加し、雪像作りにチャレンジしました。慣れない作業でしたが、地元の方々に手取り足取りアドバイスして頂き、どうにか雪像を完成させることができました。



雪祭りに参加
（永平寺大野道路杉保トンネル工事）



雪像作成中
（永平寺大野道路杉保トンネル工事）

九州支店では、国指定の重要無形文化財である博多祇園山笠に毎年協賛しています。7月1日から15日間続くこのお祭りは、博多人形師たちが腕を振った「飾り山笠」が飾られ、「昇き山」は、昇き手の男衆に担がれ、博多の街を走り抜けます。社屋の一角を担ぎ手や主催者が休憩する場所として提供しています。



博多祇園山笠（九州支店）



沿道に飾られた提灯（九州支店）

「子ども見守りデー」に協力

大阪支社では、大阪西警察署が指定する「子ども見守りデー」に協力しています。これは、子どもを狙った犯罪から子どもを守るため、西署と町内会が一体となって実施している取り組みで、登校中の児童に「おはよう」などと呼びかけ、安全に登下校できるよう見守るものです。



通学中の児童に声かけ（大阪支社）



子ども見守りデー（大阪支社）

仮囲いでイメージアップ

岩沼市新図書館新築建築工事（宮城県）で仮囲いに地元小学生の絵を展示しました。



仮囲い（岩沼市新図書館新築建築工事）



仮囲い（名城大学塩釜東研究棟新築工事）

名城大学塩釜東研究棟新築工事（愛知県）で仮囲いを緑化しました。



社会貢献活動

見学会を開催

北陸新幹線小矢部川橋りょう工事（富山県）では、社団法人富山県建設業協会主催の「高校生の現場見学会」が開催され、地元の二上工業高等学校の生徒が現場見学会に訪れました。建設現場を間近に見るのは皆初めての様子で、机の上の授業とは違う自分の目で見て触れて学ぶことにより、工事への興味を深めてくれました。



二上工業高等学校見学会（北陸新幹線小矢部川橋りょう工事）



佐賀497号線行合野川橋上部工事（佐賀県）では、地元の唐津工業高等学校の生徒40名を招いて見学会を開催しました。見学会では工事の順序や架設方法などを説明した後、実際に地上40mの橋面上って頂きました。後日、校長先生がお礼の言葉と一緒に生徒が書いた感想文を送って下さいました。



唐津工業高等学校見学会（佐賀497号線行合野川橋上部工事）



永平寺大野道路杉俣トンネル工事（福井県）では、小学生からお年寄りまで地域住民の方々約90名を招いて現場見学会を開催しました。普段は見ることも出来ないトンネル掘削中の内部、掘削重機を見学した参加者からは「とても良い経験となりました」「また見てみたい」「開通すると便利になる」など、たくさんのご感想を頂きました。



見学会（永平寺大野道路杉俣トンネル工事）



東日本高速道路常磐自動車道相馬南工事（福島県）では、近隣の真野小学校の児童8人が「大地のつくり」というテーマで理科の課外授業を行いました。児童たちは地層がはっきりとわかる切土のり面を観察し、スケッチしたのち、高速道路の工事現場を見学しました。



真野小学校の課外授業（東日本高速道路常磐自動車道相馬南工事）



鹿児島3号新武岡トンネル新設2期工事（鹿児島県）では、近隣の田上小学校の児童を招いて見学会を開催しました。参加した児童は、トンネル工事特有の大型重機に目を丸くして喜んでくれました。トンネル坑内を見学後に、実際に工事で使用する防水シートに絵を描いてもらいました。



田上小学校児童の見学会（鹿児島3号新武岡トンネル新設2期工事）



防水シートへのお絵かき体験（鹿児島3号新武岡トンネル新設2期工事）

地域の大学の教育制度に協力

本店人事部では大学のキャリア形成支援プログラムに協力しています。桃山学院大学のキャリア教育科目のうち夏期休暇中に行われる実習「企業インタビュー」で3組16名の1年生を受け入れました。業界や職種について理解を深め、働く意義や目的が意識できるよう、OB社員が自らの体験談を持って後輩たちのインタビューに答えました。



企業インタビュー



お礼の手紙

海外留学生を受け入れ

財団法人大阪府国際交流財団を通じて建築を学ぶ海外留学生を受け入れています。2009年度はインドネシア、ネパールより各1名が研修に訪れ、約2週間にわたる建築設計技術および建築工事管理についての研修を実施しました。



銭高社長と記念撮影

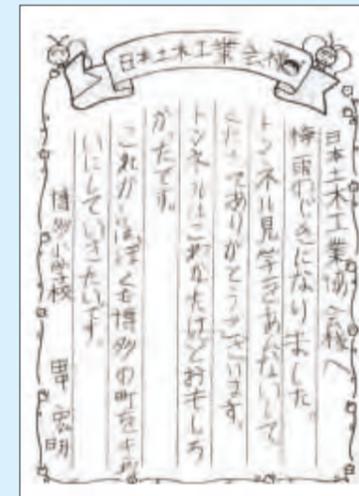


現場を見学

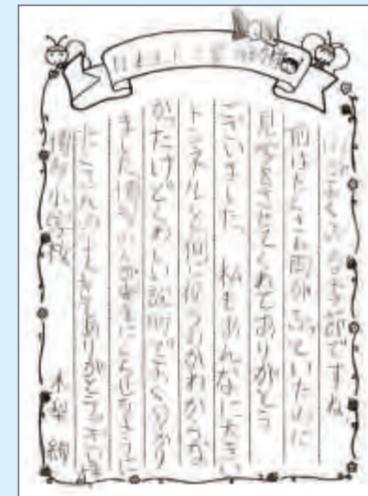
比恵9号幹線工事 100万人の市民現場見学会

社団法人日本土木工業協会が主催する100万人の市民現場見学会の一環で、比恵9号幹線築造工事（福岡県）に地元の博多小学校の児童約100名を招いた見学会を開催しました。

当日はあいにくの雨でしたが、工事内容の説明を受けた後、児童たちは初めて入る地下トンネルに興味した様子でした。質疑応答では「どんな道具を使うのか」「掘るのにどれくらい時間がかかるのか」など活発な質問が寄せられました。後日頂いたお礼のお手紙の一部を紹介します。



田中宏明さんのお手紙



木梨 絢さんのお手紙



工事の内容を説明



いよいよ坑内へ



坑内で記念撮影



環境マネジメントシステム

建設業の特徴の一つに、工事を行う作業所が各地に点在し、それぞれの周辺環境や施工方法によって環境に関する負荷が異なることが挙げられます。

これらの環境負荷を予防、低減するために、当社では5つの重点項目を柱とした環境マネジメントシステムを運用しています。

重点項目

1. 環境影響評価に基づいた部署ごとの環境目標の展開と自主監視
2. 外部審査、内部監査および環境パトロールによるシステム運用の状況と法令順守の監視
3. 教育・啓発活動の実施
4. 環境保全活動表彰の実施
5. マネジメントレビュー

組織

全社を統轄する環境マネジメントシステム代表者（EMS代表者）および環境マネジメントシステム管理責任者（EMS管理責任者）の指示のもと、本社部門および支社店の部門環境マネジメントシステム管理責任者（部門EMS管理責任者）が統轄管理する体制としています。

また、中期経営計画に基づき環境目標を展開し、月次で実践度を確認、指導しています（参照：本書P31 2009年度環境活動実績と2010年度環境活動目標）。

作業所では、協力会社の方々と共にゼロエミッション、CO₂削減の推進および省力化に知恵を出し合い、協力して環境活動を展開しています。

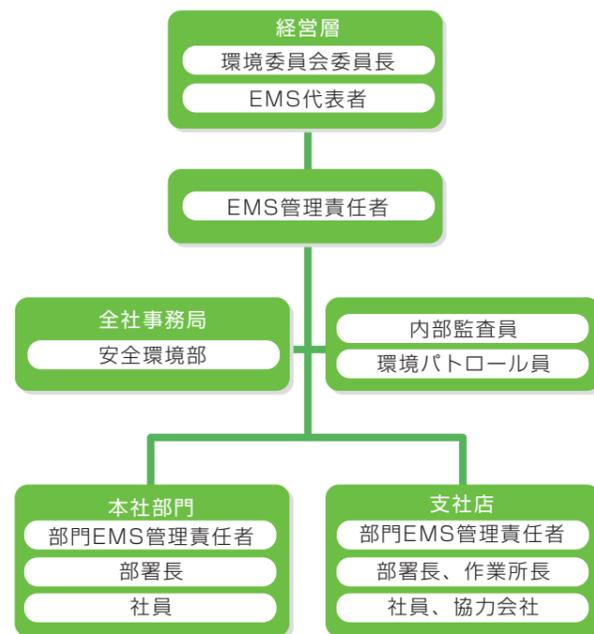
監査および環境パトロール

部門EMS管理責任者による月次の実践度確認、指導に加え、本社および支社店の安全環境部署による内部監査および環境パトロールを実施し、法令の順守状況をはじめ環境活動の実施状況について監視、改善を行っています。



登録証

付属書



っています。

また、財団法人日本品質保証機構（JQA）の定期審査を年1回受審し、ISO14001の適合性の評価を受けています。



書類審査



掲示物の審査



作業所の審査

	第三者認証機関の定期審査	本社主管による監査	環境パトロール
		内部監査	
実施者	財団法人 日本品質保証機構	安全環境部	安全環境課
実施時期	2010年6月7日～6月11日	2009年8月18日～12月4日	通年
実施部署数	30部署+5作業所	38部署	209作業所
指摘項目数	24件	178件	665件
推奨事項	0件	0件	0件
主な指摘事項	1. 環境目標の見直しの不備 2. 環境法規制のチェックの不備 3. 環境配慮設計に関する教育の不備		

教育・啓蒙活動

社員に対しては、社員研修、所長会議や全店担当者会議等を通じて、環境教育を実施しています。専門性の高い環境技術や規格についても、社員研修や外部講習を通じて新しい情報を取り入れています。

作業所では、協力会社作業員に新規入場者教育、朝礼などを通じて、自らの作業と環境保全活動との関連について教育し、自覚を促しています。

また、内部監査や環境パトロールで指摘された事項は、全国の作業所に水平展開し再発防止に努めています。

社内表彰

「資源循環型社会の形成、地球環境などの保全活動に全員が創意工夫して積極的に取り組む」活動を活性化するために「環境保全活動表彰制度」を、2005年9月に創設しました。

これは、環境負荷低減評価、コスト評価、独自性、優位性等の審査項目について、各支社店と本社の2段階で審査し、顕著な貢献があった社員や部署、作業所を年1回、表彰する制度です。

2009年度は、応募件数12件のうち、優良な2件について表彰しました。

2009年度 外部講習・社内集合教育（社員）

教育回数	39回
延べ人数	1,019人



環境教育

環境影響に起因する訴訟・罰則等

2009年度は、工事に伴う環境影響に起因する訴訟・罰則はありませんでした。

マネジメントレビュー

本社部門長および支社店長が参加する会議において、環境目標の実施状況などを確認し、達成状況に応じてシステムの見直し、改善を行っています。

表彰者ボイス



中山 弘保
（東京支社）

環境保全活動優良賞の表彰を受けて

北陸新幹線関川橋りょう作業所

本工事は、北陸新幹線の長野～上越間に位置する橋りょう工事で、付近一体は豊かな水田地帯が広がっています。橋りょうが架かる関川は、これらの水田の水源で、鮎の釣り場でもあり、河川内工事には環境保全への配慮が求められました。基礎工事に使用する送気管や施工機械には特に配慮し、周辺環境の保全と地域との交流、貢献活動に努めた結果、発注者および河川管理者、地域住民の方々から高い評価を頂くことができました。

2009年度環境活動実績と2010年度環境活動目標

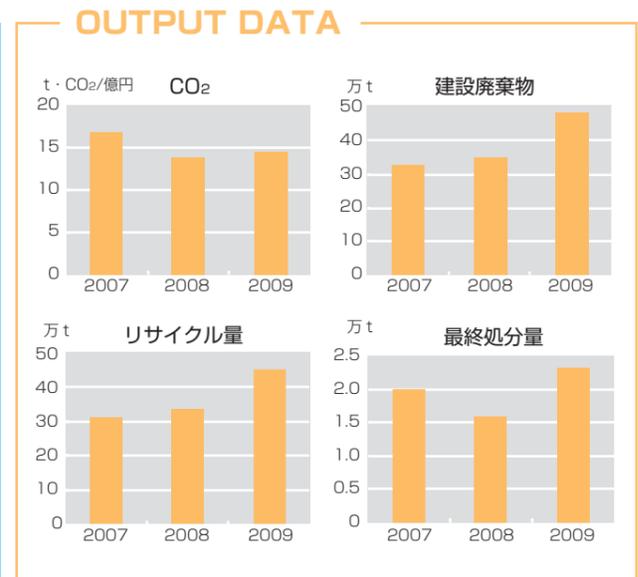
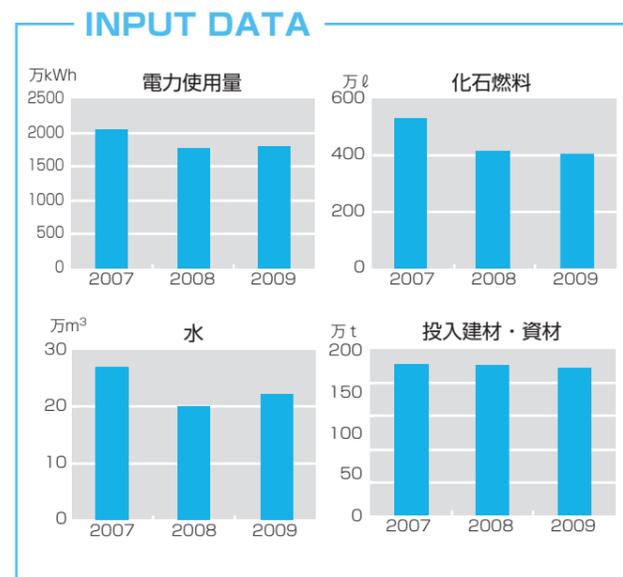
「環境関連法規制の順守」、「脱温暖化社会・循環型社会への事業活動」、「社会貢献活動への取り組み」について、具体的実施事項を定め毎年数値目標を掲げ、全社一丸となって取り組んでいます。

2009年度の環境活動目標および活動実績と2010年度環境活動目標は以下の通りです。

目的	中期目標 (2008~2010年) 実施事項および目標値	2010年度 環境活動目標	2009年度環境活動目標および環境活動実績		
			目標	実績	
環境関連法規制の 順守	環境関連事故防止 環境関連法規違反による事故防止 0件 環境パトロール実施回数 1作業所年4回以上 環境パトロール指摘事項は正実施 100%	0件 4回以上 100%是正	0件 3.7回 100%	0件 2.7回 100%	
	有害化学物質の管理の徹底 有害物質・土壌汚染等に関する処理状況の把握	PCB保管状況の日常点検実施	PCB保管状況の点検実施	PCBコンデンサー早期登録完了、 大阪1台・東京4台・機材センター 131台、低濃度調査完了(コンデ ンサー・安定器)、コンデンサー 九州1台・東北1台、安定器東京 240台・機材センター1台	
	アスベスト調査・適正処理	不適正処理 0件 石棉に関する工事管理表 による監視	不適正処理 0件	不適正処理 0件	
	汚染土適正処理	汚染土適正処理の把握 不適正処理 0件	不適正処理 0件	不適正処理 0件	
脱温暖化・循環型 社会への 事業活動の展開	オフィス業務におけるCO ₂ 排出量の削減 110kg-CO ₂ /人・月 (04年度比 6%削減)	107kg-CO ₂ /人・月	113kg-CO ₂ /人・月	104kg-CO ₂ /人・月	
	全社 (オフィス・作業所) におけるCO ₂ 排出量の 削減 18.0 t-CO ₂ /億円 (04年度比 12%削減)	14.5t-CO ₂ /億円	15.0t-CO ₂ /億円	全社 14.6t-CO ₂ /億円 土木工事 24.6t-CO ₂ /億円 建築工事 7.8t-CO ₂ /億円	
	コピー用紙使用量の削減 1,035枚/人・月 (04年度比 6%減)	1035枚/人・月	1182枚/人・月	1263枚/人・月	
	水道使用量の削減 170m ³ /億円 (04年度比 6%減)	163m ³ /億円	163m ³ /億円	188m ³ /億円	
	事務用品のグリーン購入率向上 70% (04年度比 25%増)	91.6%	84.1%	90.7%	
	建築資材等のグリーン調達促進 指定品目数 31品目	31品目	31品目	28品目	
	環境配慮設計の推進 環境配慮設計 (CASBEEを含む) の実施	100%実施 CASBEE評価済み物件数 /実施設計件数	100%実施	22件実施提案	
	環境技術開発による環境関連事業拡大 建設廃棄物の減量化、土壌浄化、自然エネルギー利用、 水循環システムおよび生態系保全技術開発による事業 拡大	3件	3件	SMW掘削土の減容化技術の開発 室内温熱環境予測技術の開発 CO ₂ 削減システムの開発	
	作業所 ゼロエミッションの 実施	建設廃棄物原単位排出量の削減 9.7 t/億円 (解体系廃棄物・建設汚泥除く)	9.4 t/億円	9.7 t/億円	全社 8.6 t/億円 土木工事 5.1 t/億円 建築工事 9.7 t/億円
		建設廃棄物の適正処理システムの改定・運用 (電子 manifests の導入)	全作業所実施100%	全作業所実施100%	98%
廃棄物リサイクル率の向上 98%以上		98%	95.5%	全社 96.1% 土木工事 99.8% 建築工事 91.7%	
作業所ゼロエミッション活動の推進 土木工事 工事価格 2億円以上全作業所 建築工事 工事価格 4億円以上全作業所		土木工事 2億以上の全作業所 建築工事 4億以上の全作業所 実施率 100%	土木工事 2億以上の全作業所 建築工事 4億以上の全作業所 実施率 100%	土木工事 73作業所対象 73作業所実施 建築工事 113作業所対象 113作業所実施	
	社会貢献活動	広報活動の強化 地域・社会貢献活動への取り組み 社会貢献活動データベース登録 (全事業所、作業所)	環境広報活動の強化 地域・社会貢献活動への 取り組み	環境報告書のHP上での公開 現場見学会の実施 環境報告書配布先 顧客、コンサルタント会社、設計会 社協力会社、社員、環境報告書展示 ブースにより一般に配布	

マテリアルフロー

INPUT		OUTPUT	
	電力 1,750 万kWh		CO ₂ 14.6 t-CO ₂ /億円
	化石燃料 (軽油・灯油) 408 万ℓ		建設廃棄物 48.1 万t
	水 22 万m ³		リサイクル量 45.8 万t
	主要建材・資材 172.5 万t		最終処分量 2.3 万t

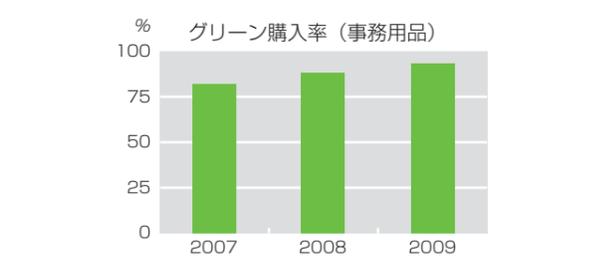


グリーン調達

建設事業は、環境に対し間接または直接的に様々な影響を及ぼすため、当社では、積極的に環境負荷低減に配慮したグリーン調達を推進しています。

施工活動においては、対象品目が作業所において採用できるかを検討して発注者に提案を行い、グリーン調達を推進しています。また、事務用品等では、購買システムを取り入れグリーン商品購入を促進しています。

グリーン購入率



主なグリーン調達品 2009年度実績

主なグリーン調達品	単位	実績数量
異形鋼棒 (電炉)	t	86,073
鋼矢板	t	2,281
高炉コンクリート	m ³	51,894
形鋼 (電炉)	t	69,334
高炉セメント	t	28,915
フライッシュセメント	t	1,277
透水性舗装	m ²	9,236
再生アスファルト合材	m ³	27,298
スラグ路盤材	m ³	3,687
再生砕石	m ³	88,465
再生砂	m ³	1,013
再生安定処理土	m ³	39,464
流動化処理土	m ³	15,933
土壌改良 (固化) 材	m ³	20,532
代替型枠 (打込み型枠等)	m ²	21,226
断熱材 (グラスウール・ロックウール)	m ²	114,651
パーティクルボード	m ²	26,825
木質系セメント板	m ²	4,456
エコクロス	m ²	42,798
石膏ボード	m ²	811,530
石綿吸音板	m ²	65,686
塩ビ系床材	m ²	75,492
再生硬質塩ビ管	m	5,652
断熱サッシ・ドア	枚	5,696
ガスヒートポンプ冷暖房機	台	198
LED照明器具	台	193
太陽光発電システム	kW	22
日射調整フィルム	m ²	43



環境負荷低減への取り組み

自然エネルギーの利用

当社では、作業所における環境負荷を低減するため、仮設事務所の屋根や仮囲いに太陽光発電装置を設置する取り組みを広げています。

環状二号地下トンネル築造工事（東京都）では、仮囲いに太陽光パネルを設置して発電を行っています。日中発電した電力を蓄電池に蓄え、LEDによる作業所看板を夜間に点灯させています。

海岸通団地建替え工事（神奈川県）では、現場事務所の屋根に太陽光パネルを設置し、事務所で使用する電力を賅っています。



LEDによる作業所看板（右）
（環状二号地下トンネル築造工事）



太陽光パネル
（環状二号地下トンネル築造工事）



太陽光パネル
（海岸通団地建替え工事）



設置状況
（海岸通団地建替え工事）

エネルギー使用量の見える化

慶應義塾大学未来先導館工事（東京都）では、工事用電力の使用量を「見える化」することで、作業所内の全員に節電に対する啓蒙を行っています。作業中の現場各階に計測ユニットを設置し、現場事務所で電力使用状況をリアルタイムに表示しています。収集したデータは分析して毎日の省エネ活動に役立てています。



現場事務所にリアルタイム表示
（慶應義塾大学未来先導館工事）



画面例（月次データ）
（慶應義塾大学未来先導館工事）

産業廃棄物の削減

環状二号地下トンネル築造工事（東京都）では、土留め杭の残土処理にアクアセパレート工法（当社開発）を採用し、掘削に伴う発生土を凝集して場外搬出する泥土を削減しています。

アクアセパレート工法は、特殊水溶性ポリマーと無機系凝集剤を合わせた凝集剤を用いて高濃度泥水を40～50%程度に減容化する工法です。掘削泥土にアクアセパレートを添加して泥土を凝集します。凝集した土はフィルタプレスにより水と脱水ケーキに分離し、脱水ケーキは場外搬出します。建設廃棄物となる汚泥を大幅に削減でき、作業所から搬出する車両数も削減できます。



アクアセパレートプラント全景
（環状二号地下トンネル築造工事）



凝集剤を加えた泥土
（添加量による凝集効果の違い）



フィルタプレス



脱水ケーキ

周辺環境に配慮した取り組み

岩沼市新図書館新築工事（宮城県）では、敷鉄板の下に土嚢を敷き、重機や車両の走行時に発生する振動を低減させています。

舞鶴若狭自動車道鈴ヶ嶽トンネル工事（福井県）では、トンネル坑口部の防音扉を二重扉にし、トンネル掘削に用いる発破による騒音を低減させています。

舞鶴若狭自動車道野坂岳トンネル工事（福井県）では、サイレンサーを搭載したトンネル坑内換気設備を設置し、周辺への騒音を低減させています。また、作業所の出入口には湿式のタイヤ洗浄機を設置し、トンネル土砂搬出地の粉塵対策に取り組んでいます。



敷鉄板の下に土嚢敷設
（岩沼市新図書館新築工事）



坑口に二重に設置した防音扉
（舞鶴若狭自動車道鈴ヶ嶽トンネル工事）



低騒音な換気設備
（舞鶴若狭自動車道野坂岳トンネル工事）



トラックのタイヤ洗浄
（舞鶴若狭自動車道野坂岳トンネル工事）

廃鉱山の保全

廃坑となった鉱山ののり面を保全するため、緑化施工実験工事や緑化工事を行いました。

また、廃鉱山の坑道に坑廃水を中和した沈殿物を充填することで、坑廃水量を低減する経済産業省からの受託研究にも参加しています。



廃鉱山の緑化



中和殿物の充填

排気ガスの浄化

江東区認定こども園及び児童・高齢者総合施設工事（東京都）では、コンクリートポンプ車に黒煙浄化装置を装着し、排気ガスを浄化しています。装置を装着することで黒煙、二酸化炭素、亜硫酸ガスの排出量を75%以上低減しました。



黒煙浄化装置（白い煙は水蒸気）
（江東区認定こども園及び児童・高齢者総合施設工事）



有害化学物質の適正な管理

建設工事で発生する掘削残土は、土壌汚染対策法や各地の条例に基づいて適切に調査し、土壌汚染が発見された場合は適切に処理しています。



重金属汚染土壌の掘削除去

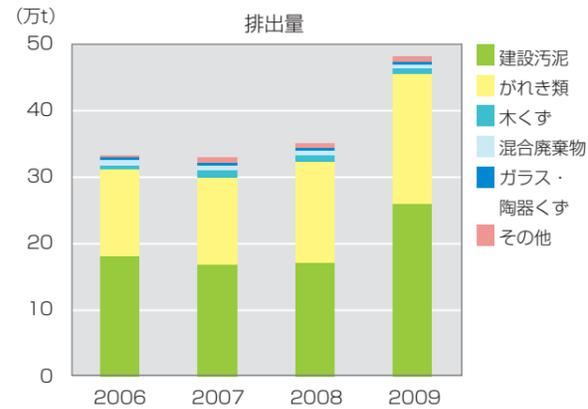


除去後の地下水モニタリング

建設廃棄物削減と再資源化への取り組み

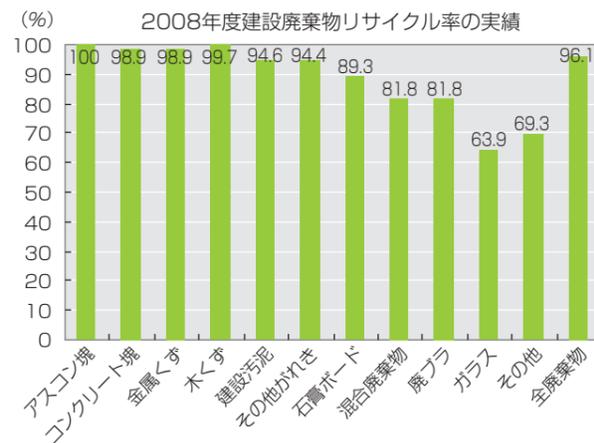
建設廃棄物排出量の推移

2009年度の建設廃棄物排出量は48.1万tで、前年度に比べ37%増加に転じていますが、最終処分量の比率は前年度に比べ0.8%減少しています。発生量増加の主な要因は、大型シールド工事の集中による建設汚泥の増加、解体工事から発生するがれき類（コンクリート塊）の増加などによるものです。品目別排出量は、建設汚泥が55%、がれき類（コンクリート、アスファルト）が41%を占めています。



2009年度の考察および今後の取り組み

全廃棄物のリサイクル率は、前年度の95.3%に対し0.8ポイント増加し96.1%となりました。発生量の多い建設汚泥のリサイクル率が改善され（92.2%→94.6%）、全体のリサイクル率向上に貢献しています。建設リサイクル法の施行以来、中間処理設備等の充実や再生品の積極的活用により、リサイクル率が高水準に推移しています。



今後は、発生量は少ないもののリサイクル率の悪い廃プラスチック、ガラス陶磁器くずのリサイクル方法を処理業者とともに検討し、リサイクル率向上に努めます。新設工事における原単位排出量*1)は、前年度9.3t/億円から8.6t/億円に減少しています。今後は、さらに積極的に発生抑制に関する設計、施工、資材の採用に取り組んでいきます。

ゼロエミッション活動*2)

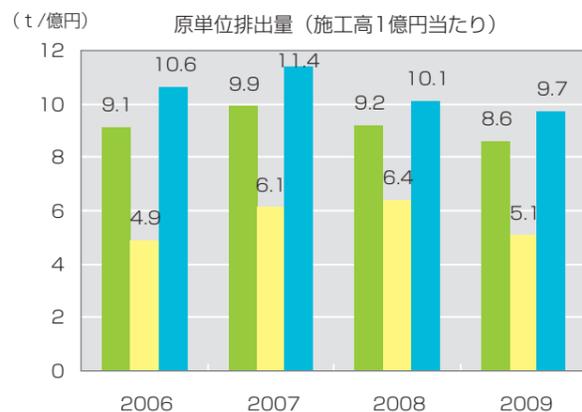
継続工事も含め一定の工事価格（土木工事2億円、建築工事4億円）以上の作業所でゼロエミッション活動を実施しています。

ゼロエミッション活動を開始した作業所は、地域や現場の特性を加味して目標値を定め、その達成を目指しています。

作業所ゼロエミッション目標値は、下記項目によって作業所ごとに設定しています。

- ①新設工事における建設廃棄物原単位排出量（汚泥除く施工高1億円当たり）の削減
- ②新設工事における混合廃棄物発生量の低減
- ③リサイクル率（作業所で発生する全廃棄物量に伴うリサイクル量）の向上

今後も、ゼロエミッション活動方針である4R活動（持ち込まない・削減・再使用・再資源化）を推進し、重点実施事項として分別の徹底と教育の実施を行ってまいります。



*1) 原単業績排出量（仕事量）の大小に影響されない基準となる単位「施工高1億円あたり」を採用している。

*2) ゼロエミッション活動
作業所から排出する建設廃棄物を抑制し、可能な限り分別を行うとともに、リサイクル率を向上させ、最終処分地に排出する建設廃棄物を限りなくゼロにする活動。

環境会計

環境活動を効率良く着実に実行するための有効なツールとして、2003年度から環境会計を導入し、運用しています。

建設業は、企業活動や工事施工中に、騒音・振動の

発生、廃棄物・CO₂の排出、水質汚濁など様々な形で環境に影響を与える可能性があります。これら諸問題に対応した実績値は下表の通りです。今後とも引き続き環境負荷低減に取り組んでいきます。

環境保全コスト

(単位：百万円)

	2007	2008	2009	取り組み内容
1.事業エリア内環境保全コスト	3,411	3,457	3,840	
(1) 公害防止コスト	1,190	1,273	1,004	作業所の仮設工事費のうち大気汚染・水質汚染防止のためのコスト
(2) 地球環境保全コスト	204	241	172	作業所の仮設工事費のうち地球温暖化防止のためのコスト
(3) 資源循環コスト	2,017	1,943	2,664	作業所におけるアスベスト回収費、汚泥処理費、産業廃棄物処分費
2.上・下流コスト	28	28	28	設計・エンジニアリングにおける環境配慮のための人件費と経費
3.活動管理コスト	330	354	292	環境保全に係わる教育費、騒音・振動測定の実費
4.研究開発コスト	74	81	90	環境関連の研究開発のための人件費と経費
5.社会活動コスト	58	63	54	作業所周辺の美化運動、清掃活動の実費
6.環境損傷対応コスト	12	12	10	自然環境、損害補償の実費
合計	3,913	3,995	4,314	

環境保全効果

	2007	2008	2009
1.作業所建設廃棄物関係			
(1) 廃棄物排出量 (万t)	33.0	35.0	48.1
(2) 廃棄物のリサイクル量 (万t)	31.0	33.4	45.8
(3) 最終処分場 (万t)	2.0	1.6	2.3
2.地球温暖化物質、省エネ・省資源			
(1) CO ₂ 排出量 (t・CO ₂ /億円)	16.7	13.8	14.6
(2) 電気使用量 (万kWh)	2,059	1,730	1,750
(3) 水道使用量 (万m ³)	26.9	20.0	22.0
(4) 用紙使用量 (A4換算) (万枚)	2,554	2,352	2,425

外部表彰

ろうきん肥後橋ビル

第3回大阪サステナブル建築賞：
大阪府が地球温暖化・ヒートアイランド対策を推進する一環として2007年に設けた表彰制度です。

第11回日本免震構造協会賞
免震構造の技術の普及および適正な普及発展に貢献した者並びに建築物に授与される賞です。



設計作品がグッドデザイン賞受賞

グッドデザイン賞：
財団法人産業デザイン振興会が主催する総合的なデザイン評価・推奨制度です。



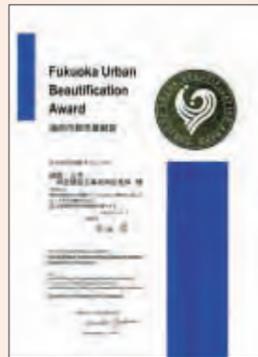
本郷パークハウス ザ・プレミアフォート



イノシア千住曙町

九州大学伊都キャンパス

福岡市都市景観賞：
福岡のまちの魅力を創り出している建物や通り、企業や活動に関係している人たちに福岡市から贈られる賞です。



横浜税関本関

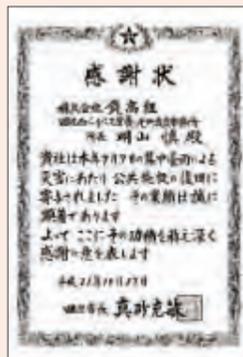
公共建築賞：
公共建築の総合的な水準向上に寄与することを目的として、社団法人公共建築協会から贈られる賞です。



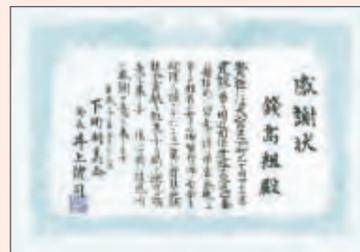
感謝状

災害復旧など、地域社会とのかかわりの中で頂いた感謝状の一部を紹介いたします。

田辺西BP養芳・元町改良工事：
降雨により土砂が堆積した県道の復旧に貢献し、田辺市長から感謝状を頂きました。



大宮区下町三丁目マンション建設工事：
工事近隣の交通安全確保に貢献し、近隣住民の方々から感謝状を頂きました。



アンケート結果

環境報告書2009のアンケートに多くの御回答を頂戴し、まことにありがとうございました。

興味を持たれた記事、良かった点、環境報告書の利用方法などについて頂いたアンケートの一部をご紹介します。皆様から寄せられた貴重なご意見は、本年の環境報告書作成にあたり参考にさせていただきます。

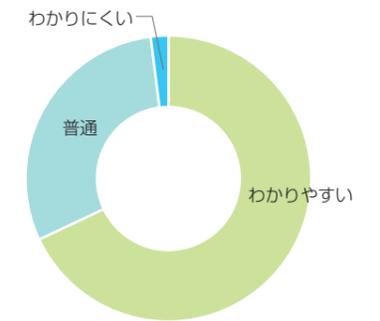
主なご意見、ご要望など

- 写真等が多く盛り込まれており分かりやすい
- 社会貢献活動を今後とも広げてほしい
- 各事例の担当者の写真に笑顔が多く、好感が持てる
- 写真が見やすく色がきれいだが、もう少し文字を大きくしてほしい
- 工法など、知識のない人に分かるようイラスト説明を入れてほしい

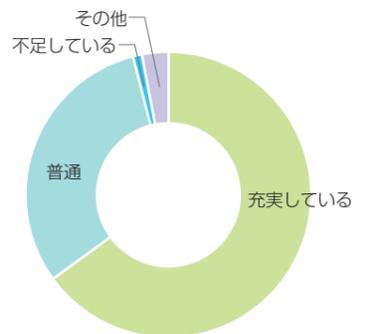
今後の取り組み

1. 環境関連法規ほか、法令順守の徹底
2. 社会的貢献活動の強化
3. 社会とのコミュニケーションの強化
4. 全設計案件に環境配慮設計を適用
5. 環境関連技術の開発と展開
6. 全社を挙げての更なる省エネ、省資源化、廃棄物の発生抑制、CO₂排出量の低減

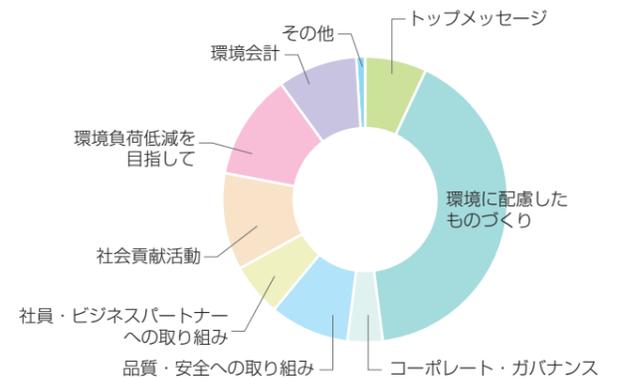
報告書のわかりやすさ



報告書の記載事項・内容



興味を持たれた記事



会社概要

社名	株式会社 銭高組
本店所在地	大阪市西区西本町2丁目2番11号
代表者	社長 銭高一善
創業	1705年9月18日
創立	1887年2月1日
資本金	36.95億円
純資産	317億円
売上高	1,724億円
社員数	1,387名
事業内容	1. 建設工事の請負、企画、設計および監理 2. 建設に関する開発事業ならびにこれに関する調査、企画・設計および監理 3. 不動産取引業 4. 建設材料の加工および販売 5. 前各号に付帯する事業ならびにこれに関連する一切の業務
事業比率	土木30% 建築68% 不動産2%



(2010年3月末現在)